ますが其の池澤口新五左衛門、根來八九郎、間宮五郎兵衛などであります、此の弟子達は後に龜井忠雄に從ひまして其の兄弟子を師匠の如くして刀術の極意を受けました、間宮五郎兵衛は藝州公に仕へまして又れは安藝樣のお家に此の子孫が殘りました由、うゑで小野次郎左衛門忠常といふものが或は忠勝が實名だといふ說もありますが先づ忠常といふ方が據るとゑろ確かでございます此の人も德川三代公に對し奉まつりまして悉く忠勤を爲し、小野次郎右衛門忠常は既に柳生但馬守と共に大目附おゝも勤めた人でありますさうで、其の後兄の典膳が病死いたして仕舞ひ、此の家は仔細あつて絕へました、うゑで次男の忠常が父神子上典膳の家を繼ぎまして伊藤も神子上も絕へたやうなるのて小野の家は既に德川瓦解前まで江戸濱町に屋敷を殘しました、うゑで德川三代樣の御代に小野次郎右衛門が武

術を悉く現はしました、其の門人の中に於て梶新左衛門正直これが小野忠常の高弟でございます、此の時小野次郎左衛門が同じ一刀流にも又一の妙を考へ出しまして、これを小野派といひ此の時から小野派一刀流と申しまするこで門人の新左衛門か後に握派といふ一派を開きました、それより一刀齋には既に中興まで詣君が存じの通りある玉が池に千葉周作先生が北辰妙見様を信心いたしまして北辰一刀流といふ門を拵へました、これは何故かといふと武州秩父郡の豪士にして逸見の冠者十七代の後邊見多四郎義利といふ人がありましたこれは名高くして今にも殘つて居ります、此の人は甲源一刀齋といふ一派でありましたが爲にこれと爭つて千葉先生が斯く北辰を頭に附けたのでございます、又最上藩に仕へました飯田播磨が飯田一刀流といふものを編出しました、此の飯田の家は最上改易の折り

に潰ぶれたさうでございます、そこで神子上典膳の瓶割といふものは種々様々講談或は草双紙にもありますが實際は決して紺屋の藍瓶を切つたものではないといふのは正に其の証かあります、扨て一刀齋より傳はつて神子上典膳而うして伴伊藤典膳、其の弟が小野次郎右衛門忠常、其の弟子が梶新左衛門と種々にこれを傳へ一刀齋の盛なることは實に幕此瓦解の際までも一刀流は大層流行りましたものでございます、これにてまだ武術のお話も種々ありまするが即ち神子上典膳の一代のお話しでございますから典膳の死したるこを申して見ればこに既うお話しする所もあく先づ瓶割の傳記これを大尾といたします、まだ〳〵此の先は武藝流祖祿の中一々銘々傳記もありますがそれは又後して一冊の本として講演いたします併し人情のお話や俠客、白浪もの又は新談と逸つて何れも履歴の殘

つて居りまする武術のお話しで附會説は申しませんが却つてお慰さみゐもなりませんでございましたらう大概みれを大團と止み置きます御退屈……

瓶割典膳 終

明治卅年八月卅一日印刷
仝　年九月三日發行

講談百冊ノ十

編輯兼發行者　東京市神田區佐久間町三丁目卅八番地　市川路周

印刷所　同　神田區鍋町廿四番地　横田磯吉

發行所　同　神田區佐久間町三丁目卅八番地　文事堂

版權所有

096720-000-7

特8-673

瓶割典膳（一刀流）

錦城齋　貞玉／講演

M30

DBS-0440